

米国の公園から学ぶ

第3回 「グリーンインフラとまちづくり」

兵庫県立大学大学院 准教授／

兵庫県立淡路景観園芸学校 主任景観園芸専門員 嶽山 洋志

グリーンインフラとは「自然環境が有する機能を社会における様々な課題解決に活用しようとする考え方」で、特に米国で良く見られるのが、雨水の排水システムに自然の力を利用している事例です。写真1はもともとコンクリートだったところをはがし植栽地にしている例ですが、降った雨は地上部を流れて排水溝に注がれるだけでなく、



写真1 コンクリートをはがして植栽帯をつくる



晴天時



荒天時

写真2 窪地のあるニューオリンズの公園

集中豪雨などの自然災害を想定した際、これらの事例のように、いかに「ゆっくり」排水するかは非常に大切なことで、台風や梅雨前線等の影響による洪水被害をほぼ毎年のよう

に受けている日本においても重要なテーマであるといえます。

インフラというと大規模な印象がありますが、小規模な取り組みもあります。例えば写真3の左は、コンクリート製のプランター（この後、自生種のみキナシサバルを植栽）を市民が作っているところで、プランターの上部にオーバーフロー穴が空いているので、大雨が降った時はプランターに水を貯めるとともに、余分な水は排水される仕組みや、レインバレルと呼ばれる雨水を貯めるタンクで、プランターと同様に雨樋か



写真3 市民参加によるグリーンインフラ整備

らの水を引き込みながら、余剰分は排水される仕組みです。これらはGlobal Green USAという市民参加型でグリーンインフラ整備を進めるニューオリンズの団体の取り組みですが、同時に人材育成のプログラムも行われており、地域のアセスメントと提案を出すトレーニングや、レインバレルの制作などもものづくりの技術、そこで使われる自生植物の知識、メンテナンスの方法などを市民は学んでいます。このような小さな取り組みの積み重ねで、街全体が大きな遊水池になり、災害のリスクを軽減させることができます。皆さんの街でも取り組んでみてはいかがでしょうか？



写真4 レインバレル

9月20日～9月27日の8日間、明石公園と明石駅周辺やサテライト会場（明石市立花と緑の学習園）を舞台に、「ひょうごまちなみガーデンショー in 明石」を開催しました。

今年のテーマは「次世代につながる花と緑のバトンリレー」。まずは明石公園内・武蔵の庭園にて、オープニングセレモニーからスタート。テープカットの後、西芝生広場の会場に並んだ作品を来場者の皆様が熱心に鑑賞されていました。



アグリハイスクールガーデン
(県立淡路高等学校の作品)

アグリハイスクールガーデンは、県内農水産系高校12校が作庭しました。各種体験教室、ミニショベル乗車撮影体験、ボルダリング体験、キッズ花のファッションショーなど様々なイベントも盛況でした。



たねだんごづくり



ボルダリング体験

最終日は、あかし市民広場（パピオスあかし2F）にて、弦楽四重奏のさわやかな演奏を楽しんでいたあつと「花と緑のまちづくりセミナー&表彰式」を行いました。講師の面谷ひとみさんには「癒やす庭～365日美しい庭づくり～」と題し、クリニックに来院される患者さんの心を和ませる、庭づくりの工夫を紹介していただきました。

表彰式では、ベテランの方だけでなく、次世代を担う方々も表彰され、テーマである「花と緑のバトンリレー」にふさわしい締めくくりとなりました。



花と緑のまちづくりセミナー



ガーデンコンペ・ひょうご表彰式



ひょうごまちなみ ガーデンショー in 明石 2020 開催報告

2020 ガーデンコンペ・ひょうご

兵庫県知事賞受賞作品

「ひょうごまちなみガーデンショー in 明石」のメインイベントである「ガーデンコンペ・ひょうご」には、全439点の作品が集まりました。各部門の最優秀作品をご紹介します。(敬称略)

ガーデン部門



《まちなみガーデン》
特定非営利活動法人
ひょうごグリーンスタッフ
(小野市)



《寄せ植え》
水野 圭子
(明石市)



《ミニ寄せ植え》
西口 晶代
(淡路市)



《ハンギングバスケット》
三宅 義貴
(加古川市)

写真部門



《コミュニティ・職場》
寺本自治会 華の部
(伊丹市)



《家庭》
寺尾 康男
(朝来市)



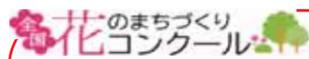
《学園》
社会福祉法人正覚坊福祉会
正覚坊こども園(加東市)

単鉢コンテスト受賞作品



《花と緑のまちづくりセンター長賞》
蔵本 るり(神戸市)





祝！第30回全国花のまちづくりコンクール 花のまちづくり大賞受賞

今年度の、全国花のまちづくりコンクールに、兵庫県から受賞された方々をご紹介します。

花のまちづくり大賞 農林水産大臣賞 < 個人部門 >

井上 善人氏「水仙の丘」 淡路市

セカンドライフを考えている頃、「あわじ花回廊計画」「公園島淡路」を目指す機運が高まっていました。「花と緑の協会」設立・推進した経験から、4000㎡ある廃園のみかん園を花園にしようと決意。

灘黒岩地区には、日本三大水仙郷がありニホンスイセン（1～2月）が咲きます。

自宅のラッパスイセン（3～4月）を移植することで1～4月まで咲く水仙の丘淡路の計画を立てました。平成9年から分球・移植、業者から一球も購入することなく13年かけ4000㎡の傾斜地に植え付け完了。



早春の陽光を浴び10万本の黄色いラッパスイセンが咲き誇り、訪れる人も多くなりました。

また、放置竹林が増大する里山の竹の有効活用として「竹工作」を小学校や高齢者大学での教室、地域イベントなどで楽しみながら環境保全につながればと活動しています。

維持管理には加齢とともに苦慮することもあり、希望者に一部無料で貸出し管理していただき、現在8区画30名の会員がいます。

令和元年10月に東日本大震災災害地の南相馬市へ訪問し、水仙の丘の球根1000球を持参し、地域の皆さんと「メモリアル水仙花壇」を作り「心の絆」を結びました。

今後は、体調にも配慮し頑張りたいです。



※「全国花のまちづくりコンクール」とは

提唱：農林水産省及び国土交通省 設立：1991年

目的：国際花と緑の博覧会（花の万博・1990年・大阪市）の基本理念「自然と人間との共生」を継承して花のまちづくりを国民的な市民運動として普及、定着させること。

内容：全国各地で取り組まれている花や緑による優秀な活動を顕彰し、広く紹介する。

4部門（市町村部門、団体部門、個人部門、企業部門）で行われている。

審査項目は ・快適な生活・環境づくり・エコロジー・花による表現・花のデザイン・栽培状況・活動状況・地域の活性化

花のまちづくり優秀賞 推進協議会長賞 < 個人部門 >

寺尾 康男・桂子氏 朝来市



平成11年度に、あさご芸術の森美術館が開館し花のまちづくり拠点施設として推進されました。特に私達夫婦は花が大好きで役場職員でもあったため、関係者の1人として積極的に活動して来ました。

平成15年から、四季を通じて自宅の庭を開放するオープンガーデンに参加し、多くの方が訪れる人気ガーデンとなりました。

また、今年度からは朝来市が取り組んでいる夜久野高原花畑は重要な事業であり、なでしこの会の1人として維持管理などに、今後もさらに花と緑のまちづくりのため、地域花友の輪を広げ活性化に繋がるよう活動していきたいです。

松浦 さつき・千春氏 たつの市



昭和30年代の減反政策による休耕地を、祖父が花いっぱいにしていました。その後、母・ちづ子が「ちづちゃんの花園」として地域に親しまれ、県の観光スポット「西播磨の郷」として認定されるほどに広め、現在は、娘姉妹でさらに活動を続けイベントやワークショップとしても活用できる場としても取り組んでいます。

今春の自粛ムードの中では、来園される方も少なくなりましたが、花園はたくさんの花が咲きました。来られなくてもSNSやHPの写真・動画により鑑賞され、喜んでいただけました。これからは、次の世代の方々にも花づくりの楽しさを広めていきたいです。

花のまちづくり優秀賞 推進協議会長賞 < 個人部門 >

中谷 邦子氏 豊岡市



平成14年主人の定年を機に、神戸から豊岡市但東町に移住し自分流の庭づくりをスタートしました。平成19年から28年、豊岡市オープンガーデン、三方オープンガーデンに参加。今年但東町「第一回あいはしみちばたオープンガーデン2020」に参加。但馬県民局依頼の但馬ドームでの「但馬まるごと感動市（今年中止）」にて寄せ植え体験教室を10年間担当し、多くの花好きの方々とお会いしました。今年は、40～60歳代の多忙な女性を対象に寄せ植え講習会を開催しました。このグループを大切に見守り応援したいと考えています。今後の但東町の花と緑の活動が力強く踏み出せました。私を見守ってくださる花友や家族に支えられ元気で楽しい花と緑の田舎暮らしを続けたいと思います。

花のまちづくり奨励賞 審査委員会賞 < 団体部門 >

西宮市立段上小学校 園芸美化ボランティア様 西宮市



平成15年、地域にお住いで定年退職を迎えたご夫婦が、小学校の園芸・美化活動を始められ、父兄保護者や地域の方々ボランティアのメンバーに加わり活動をしています。年に2回のメイン花壇の植え替え、夏休みの職員・保護者ボランティアによる水やりを始め、日々の活動はメンバーが時間を作って取り組んでいます。自家採種の種を蒔き、年間で約4千ポットの苗を育て、愛情と手間をかけてお花の絶えない学校環境を維持しています。又、西宮市への「種のおすそ分け」も毎年続け、今後も園芸活動を通じた児童への情操教育や、地域との交流の一助を担っていかれるよう努力します。

グリーンメッセージ

フェノロジーカレンダーとは

兵庫県参与・(公財)兵庫県園芸・公園協会顧問
石原 憲一郎

過日、令和2年度兵庫県人間サイズのまちづくり賞にご応募いただいた「Wake Up! 柏原」への現地審査があり、丹波市柏原のまちづくりについての活動内容をお聞きいたしました。この活動は、関西学院大学大学生有志が地域住民と共に地域活性化を目指し様々な取り組みを行っているものです。その特徴の一つがフェノロジーカレンダーの作成を通して、新たな「地域の宝」を発掘し、まちづくりに活かす取り組みです。

さて、読者の皆様は、フェノロジーカレンダーをご存知でしょうか？

フェノロジーカレンダーとは、地域の自然と密接に結びついた生活の一年の移ろいを表現したもので、いわば、地域の「生活季節暦」です。

我が国には、年間の四季を通して変化する豊かな自然環境などを季節ごとに細分化した二十四節気七十二候という季節暦が有ることはご存知と思いますが、この他にも、季節の変化を予測し1年間の農作業の計画を立てることができるようにするための「農事暦」が作成されてきました。

実は、生物学に、「フェノロジー」という言葉があり、「生物季節学」「花暦学」とも言われ、中国では「物候学」とも呼ばれているようですが、我が国は、国土の地形から地域ごとの気象のもと多様な自然や文化を有しており、地域ごとに自然や人間の営みを時系列的にまとめた内容をカレンダー化して整理したものがフェノロジーカレンダーです。

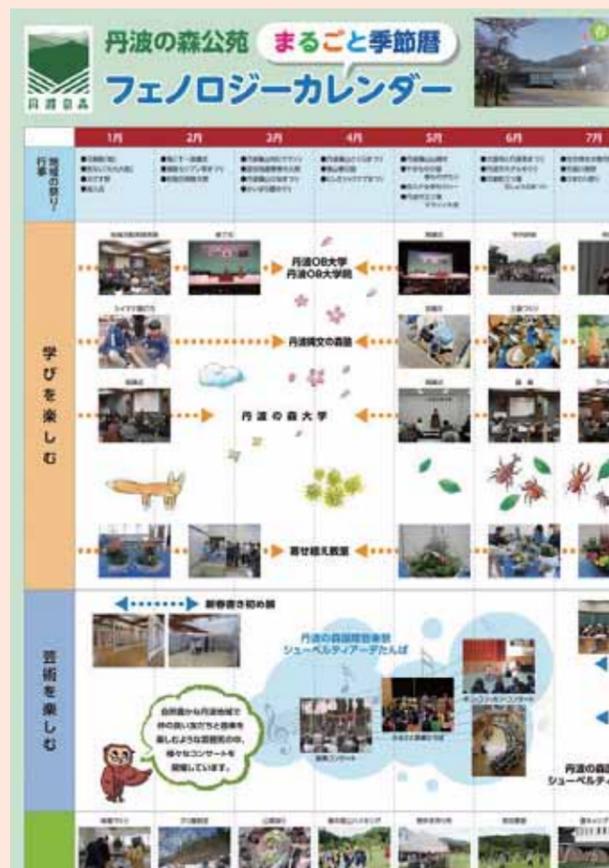
フェノロジーカレンダーでは、地域ごと、季節ごとに、生物相の変化にとどまらず、気象、歴史・文化、経済、生活等の変化を細かく捉え、いわば、地域資源を記録し、「見える化」を行うものです。

今、コロナ禍によりWithコロナ時代、ポストコロナ時代の新しい生活様式に合わせた暮らし方、働き方を模索する動きが顕在化しています。

その一つが、都市部から地方部への分散居住です。東京一極集中や三大都市圏の拡大現象がもた

らす感染症や気象変動等により頻発化する自然災害などのリスク回避からも、また、高度情報化時代の進展による暮らし方、働き方の改革から、大きな動きが始まりつつあります。その際、分散居住に必要となるのが、地方や地域の生の姿が投影されたデータや資料に裏付けられる「魅力」なのです。フェノロジーカレンダーの作成は、移住希望者や来訪者にとって、また、すでに地域に居住されている皆さんにとっても、新たな発見や気づきが生まれ、地域活性化の方向に大きな示唆を与えてくれると確信するものです。

まちづくり活動のツールとして、皆様が一堂に会し作成に向けた検討をしてみたいかがでしょうか？



【丹波の森公園まるごと季節暦フェノロジーカレンダー】
地域の行事、学びや芸術、自然について月ごとに画像で季節の移り変わりが分かりやすく紹介されています。

出典：(公財) 兵庫丹波の森協会

ほっと

相談員ニュース

オーナメンタルグラスの楽しみ

緑の相談員 城山 豊

花緑センターだより51号及び53号で紹介しました「センター屋上のコミュニティガーデン」を特徴づけている植物が、このオーナメンタルグラスです。オーナメンタルグラスとは、観賞用に栽培されるイネ科やカヤツリグサ科、イグサ科の植物を指します。スラリと伸びた草姿やスキのような穂を楽しむ植物で、華やかな花は咲きませんが、風にそよぐ姿は他の植物にはない魅力です。この植物を用いると一気に草原（くさはら）の景色を生み出すことができるのです。草原のような庭「メドウガーデン」が人気の欧米では、オーナメンタルグラスはよく利用されています。

この11月にセンターで「オーナメンタルグラスを楽しむ」という園芸教室を実施し、屋上のグラスを紹介しました。その準備をしている時に、以前NHKの「趣味の園芸」でオーナメンタルグラスを紹介したことを思い出しました。センターの資料室で調べてみると、1995年8月号でしたから、もう25年も前です。当時に比べると、オーナメンタルグラスの知名度はずいぶん上がり、人気も向上しましたが、まだまだどこでも見られるという状況ではありません。

センター屋上ではより多くの方が楽しめるよう、グラスに宿根草や一年草を組み合わせ、華やかさをプラスし、明るくくつろげる「草原」を作りました。花も大きなものは避け、風に揺れる小さな花の種類を選んでいきます。

オーナメンタルグラスには秋に穂の出るものが多くあります。一方、一般の植物ではちょうど花が少なくなる時季ですから、重要な花壇材料でもあります。また、病害虫も少なく、手間もかかりません。原則肥料も要りませんから、コミュニティガーデンに適した植物といえるでしょう。ただ、種によっては強力な外来雑草になる可能性もあるので、繁殖力をチェックし、制御できないと判断した場合は、燃えるごみとして処分することも必要です。

**** 園芸相談コーナー ****
 10:00~12:00 13:00~16:00
 火曜日を除く毎日
 TEL 078 (918) 2405
 FAX 078 (919) 5186
 MAIL info_midori@hyogopark.com

当分の間、電話又はファックス、メールのみの相談としていますので、ご了承ください。

年末年始12/29~1/3はお休みです。



園芸教室

令和2年度 令和3年1月～3月

実施日	曜日	開催時間	タイトル	講師名	定員 [名]	受講料 [円]	受付 開始日
1/17	日	10:00～	◆ プリザーブドフラワーアレンジ③ 「バレンタインBOXアレンジ」 午前 / 午後、同内容	松井 敏美	20	2,100	1/ 4
		13:30～			20	2,100	1/ 4
1/29	金	13:30～	バラの手入れ ～冬剪定～	山田 益男	20	100	1/15
2/ 7	日	10:00～	◆ 明石公園の自然観察⑦	兼光 たか子	20	100	1/15
2/14	日	13:30～	山野草の素晴らしさとやさしい栽培法	久山 敦	20	100	2/ 1
2/21	日	13:30～	◆ 原木きのご栽培にチャレンジ <しいたけ・なめこ>	仲 秀雄	20	800	2/ 1
3/ 7	日	10:00～	◆ 明石公園の自然観察⑧	兼光 たか子	20	100	2/15
3/12	金	13:30～	家庭果樹の作り方② ～柑橘・イチジク・カキの管理～	武久 正篤	20	100	2/15
3/19	金	13:30～	花と緑で健康づくり ～園芸療法の理論と体験～	金子 みどり	20	600	3/ 1

花緑博士へチャレンジ !!

◆印は小学生以上が対象です。対象の教室を5回以上参加した小中学生には、花緑博士の認定証を進呈します。

新型コロナウイルス 感染防止対策 実施中!

兵庫県園芸・公園協会では、感染拡大予防ガイドラインに基づき、**感染防止対策**を実施しています。ご不便をおかけしますが、ご協力をお願いします。

兵庫の新たな生活様式

「ひょうごスタイル」を推進しましょう

- ◆「3密」(密閉・密集・密接)の回避
- ◆身体的距離の確保(できるだけ2m。最低1m)
- ◆マスクの着用(※)、咳エチケットの徹底
※熱中症リスクを考慮し、屋外で人と十分な距離(少なくとも2m以上)が確保できる場合はマスクをはずす。
- ◆手洗い・手指消毒(手洗いは30秒程度、石けん消毒薬の利用)
- ◆体温測定・健康チェック(熱や風邪の症状がある時は自宅で療養)
- ◆発症時やクラスター発生時に備え、いつ誰とどこで会ったかを記録



 兵庫県 Hyogo Prefecture

開催場所

花と緑のまちづくりセンター 研修室



★★お申し込み・お問い合わせ★★

花と緑のまちづくりセンター

TEL 078-918-2405

受付時間は、9時から17時迄です

お申込みは、受付開始日より先着順 ※電話のみの受付

花と緑のまちづくりセンターだより 55号

- 令和2年12月22日(年4回発行)
- 編集発行 公益財団法人兵庫県園芸・公園協会花と緑のまちづくりセンター長 福田 稔
〒673-0847 明石市明石公園1-27 花と緑のまちづくりセンター
TEL: 078(918)2405 FAX: 078(919)5186 Eメール: info_midori@hyogopark.com